

茨木市立 東雲 中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年 10 月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

①言葉の特徴や使い方に関する事項	概ね良好な結果であった
②情報の扱い方に関する事項	概ね良好な結果であった
③我が国の言語文化に関する事項	概ね良好な結果であった
④話すこと・聞くこと	概ね良好な結果であった
③書くこと	概ね良好な結果であった
④読むこと	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・最も正答率の高かった設問 4 二
「最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する問題」
- ・最も正答率の低かった設問 4 一
「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」問題
- ・最も無解答率の高かった設問 1 三
「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く」問題
- ・最も無解答率の低かった設問など 1 二、2 一 3 二、三 4 一、二
「話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する」等の選択式の問題

分析

全体の正答率、領域別については概ね良好であった。

- ・無解答率が 0% (解答率 100%) の問題が複数あり、粘り強く取り組もうとする姿勢がある。
- ・最も全国平均と比べて正答率が高いのは「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題」である。
- ・最も全国平均と比べて正答率が低いのは「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに捉える問題」であった。

このことから、「読むこと」についての領域の中でも特に「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて描写をもとにとらえる」点において本校の課題があると分析する。

今後の授業では、場面展開や心情を読み取る活動を一人ではなく複数の生徒同士で協力できるように工夫して行う。

〇●数学●〇

(領域ごと)

①数と式	概ね良好な結果であった
②図形	概ね良好な結果であった
③関数	概ね良好な結果であった
④データの活用	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・最も正答率の高かった設問 5
多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているかを問う問題
- ・最も正答率の低かった設問 9(2)
筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるかを問う問題
- ・最も無解答率の高かった設問 6(3)
結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかを問う問題
- ・最も無解答率の低かった設問 3
反例の意味を理解しているかを問う問題

分析

- ・全体の正答率、領域別については概ね良好であった。
- ・無解答率が0%（解答率100%）の問題が複数あり、粘り強く取り組もうとする姿勢がある。
- ・全体の正答数の少ない層（2.3問までの正答）が、一定数ある。
- ・設問2の連立方程式を解くこと、設問 7(1)のデータの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができることにおいて、高い正答率であった。これは、学校での学習支援の取り組みで、スクールサポーターと連携した学力低位層への声掛けができていくこと、生徒同士の話し合いの中で、周囲と協力して授業を大切にしていることの結果であることが分析できる。

理科

(領域ごと)

①エネルギー	概ね良好な結果であった
②粒子	概ね良好な結果であった
③生命	概ね良好な結果であった
④地球	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する設問の正答率が最も高かった。
- ・液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する設問の正答率が最も低かった。
- ・考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する設問の無解答率が最も高かった。
- ・選択式の問題ではほとんどの設問が無解答率0%(解答率100%)であった。

分析

全体の正答率、領域別については概ね良好であった。

- ・無解答率が0%(解答率100%)の問題が複数あり、粘り強く取り組もうとする姿勢がある。
- ・記述式の問題では正答率が全国平均よりも高く、章末に学んだことをまとめたりしていたことが生徒たちの力になっているのではないかと思う。
- ・気化熱により周りの熱が奪われることを実験を通して体験していれば、定着率が上がり正答率も上がったのではないかと考えられる。この結果からできる限り多くの実験を行えるように工夫をして授業を行っていきたい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率はほぼ横ばいで全国平均並みである。
- ・無解答率はここ数年減少が続けている。

↓

学習にあきらめずに粘り強く取り組む姿勢がある。間違いを恐れずチャレンジしている。今後は正答率を向上させるために、問題文を読み取る力をつけるような取り組みをしていく必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・国語、数学ともに学力高位層、低位層は、ほぼ全国平均並みで横ばい状態にある。
- ・エンパワー層は全国平均を大きく下回っている。

↓

学力低位層への取り組みの成果が表れている。安心して学習できる環境や集団をつくってきた成果である。

〇●取り組み●〇

学力向上に関する取り組み

①学習環境の整備

- ・東雲スタンダード(東小学校・白川小学校と共通)
 - ①チャイム着席をしよう。
 - ②授業開始と終了の挨拶をしっかりとしよう。
 - ③授業が終わったら、次の時間の準備をしよう。
 - ④机の横や通路にかばんをおかないようにしよう。(荷物用ロッカーの設置)
- ・学習に集中できるように、教室の前黒板周囲には掲示物を貼らず、掲示板もシンプルにする。
- ・各教室に1日の流れ、教科の連絡等がわかるようなホワイトボードを設置。
- ・各教室に教科等の提出物と期限を記入しているホワイトボードを設置。
- ・掲示物や配布物の文字にUDフォントを使用している。

②わかりやすい授業

- ・授業の目標を最初に提示する。
- ・授業の流れがわかるようにする。
- ・仲間と話し合う(交流する)時間をもつ。
- ・振り返りの時間をもつ。

③非認知能力育成の取り組み

- ・しのっこのステッカーの活用(行事や授業での活用)
- ・茨木っ子未来手帳の活用(年度初めに使い方講座、教師も生徒とともに使用)

④その他

- ・タブレットの活用(授業での活用だけでなく、健康観察や委員・係等で生徒の自主的な活用している)
※使用方法のルールは生徒主体で考えている。
- ・放課後学習会の実施
- ・自主学習の取り組みの推進
- ・テスト計画表の作成
- ・テスト前の基礎問題の取り組みの推進